

佐伯祐三は1898年、大阪の中津に生まれました。北野中学校(現・府立北野高等学校)を卒業して東京美術学校(現・東京藝術大学)で学び、1924年、妻子を連れてパリに渡ります。日本に一時帰国するも、パリへの想いは断ちがたく再びフランスに向かい、数ヶ月間集中して制作したのち病に倒れ、30歳の若さで帰らぬ人となりました。石造りの壁、屋根に煙突をのせた建物の連なり、雨上がりの街路、広告の文字の躍る街角など、佐伯は庶民が暮らすパリの風景を愛し、描きました。当時フランスで活躍していた画家ヴラマンクから「アカデミック!」と怒られたことを契機に、佐伯は悩みながら真に自分らしい芸術を模索し、いわゆる風光明媚な名所ではなく、人々の生活が息づくパリの下町に都会の詩情を見出しました。芸術家として「純粹」であることを追い求め、焦燥のうちに描かれた作品は、今日も多くの人に感動を与えています。



佐伯祐三

この展覧会は、日本最大かつ最高水準といわれる大阪市立近代美術館の佐伯祐三コレクションから、佐伯がフランス滞在中に描いた油彩画をまとめて展示します。あわせて里見勝蔵や荻須高德などパリで交流のあった日本人画家の絵や、藤田嗣治やカッサンドルなどによる、1920年代前後にパリの街角を飾った実際のポスター作品(平成24年度よりサントリーポスターコレクションとして大阪市に寄託された約18,000点の一部を初披露)も出品します。大阪・心斎橋で、佐伯祐三が魅せられた芸術の都パリの街角を散歩するように、展覧会をご覧頂けたら幸いです。



- 1
- 2
- 3

- 1 佐伯祐三《壁》1925年  
大阪市立近代美術館建設準備室蔵  
▶第一次パリ時代の成果が凝縮された、画家会心の作。
- 2 佐伯祐三《郵便配達夫》1928年  
大阪市立近代美術館建設準備室蔵  
▶30歳で亡くなる直前の、絶筆に近い名作。
- 3 レオネット・カッピエロ《ラジオラ SFER-20》1925年  
サントリーポスターコレクション  
(大阪市立近代美術館建設準備室寄託)  
▶佐伯がいた1920年代のパリ、街には各所にポスターが貼られ、さまざまな商品や催事を宣伝していた。

### 関連イベント

#### ◆ミュージアムトーク◆

会期中の毎週月曜日・午後2時と土曜日・午後4時より30～40分程度、展覧会の趣旨や主な出品作品・作家のエピソードなど、学芸員が会場にてご案内します。じっくりと鑑賞したい方におすすめです。

#### ◆ミニトーク◆

会期中の毎週火曜日・木曜日午後6時15分より15分程度、展覧会の見どころや選りすぐりの作品など学芸員がポイントを絞ってご案内します。夕方のひととき、お気軽にご参加ください。

## ◆学芸員のおススメコレクション◆

### 大阪城天守閣 重要美術品 扇面三国図

扇の料紙をはがして掛け軸にしたもので、片面には日本・朝鮮・中国の三国があらわされ、もう片面にはひらがなの短文が17列にわけて書かれています。左から7列目には、上段に中国語「拿酒来」の発音をひらがなであらわした「なちうらい」、下段に日本語で「さけもつてこい(酒持ってきて)」とあります。英語でいえば「でいすいずあぺん これはぺんです」と書いたようなものですね。本品は東アジア貿易が発達した16世紀末ごろの成立で、豊田秀吉所用ともいわれています。さて問題です。右から3列目の「しんしん」、一番左の列の「なほんらい」はどんな意味?

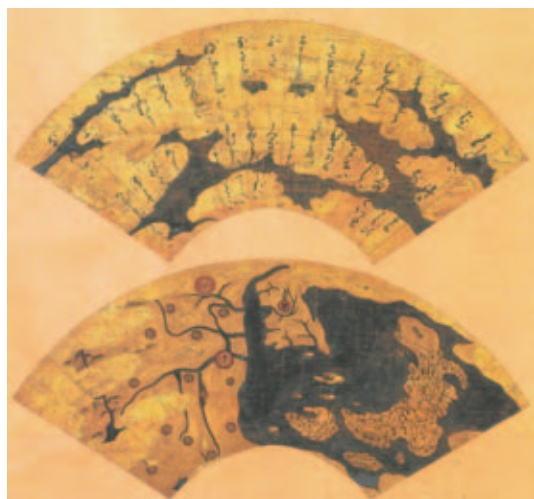
(大阪城天守閣主任学芸員 宮本裕次)

※今回紹介した作品は、天守閣3階にて7月18日(水)まで公開しています。

(1)※2024年7月18日(水)まで公開しています。

大阪城天守閣 所在地 〒540-0002 大阪市中央区大阪城1-1

TEL 06-6941-3044 FAX 06-6941-2197 アクセス 地下鉄「谷町四丁目」1-B・9号出口、「森ノ宮」3-B・1号出口、「大阪ビジネスパーク」1号出口、「天満橋」3号出口 ホームページ <http://www.osakacastle.net/>



重要美術品 扇面三国図